

都市再生整備計画 事後評価シート  
高槻駅周辺地区(3期)  
(都市構造再編集集中支援事業)

令和5年3月  
大阪府高槻市

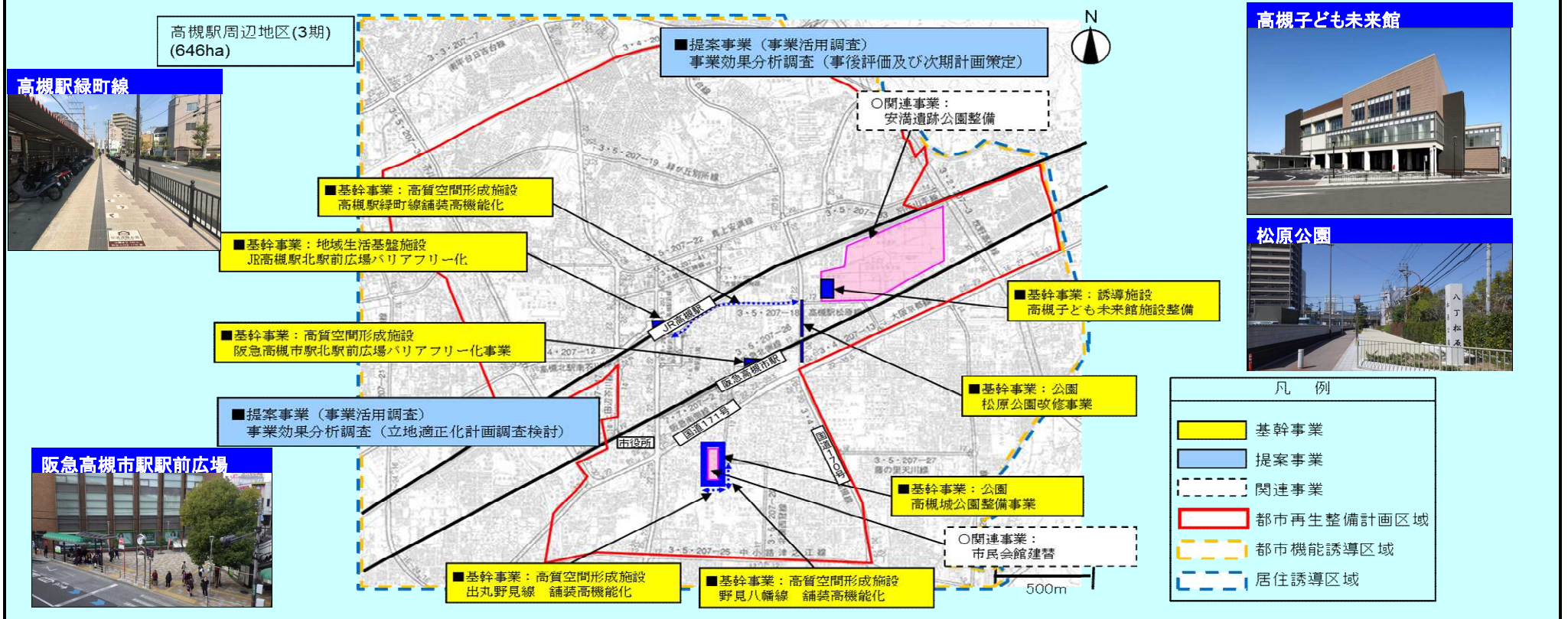
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	高槻市		地区名	高槻駅周辺地区(3期)			面積	646ha		
交付期間	平成29年度～令和4年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	3,366.4百万円	国費率	平成29年度～令和3年度:0.5 令和4年度:0.45				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 誘導施設(高槻子ども未来館)、道路(高槻町7号線、北園町12号線、野見町1号線)、公園(松原公園、城跡公園)、高質空間形成施設(阪急高槻市駅北駅前広場、紺屋町城北線)										
		提案事業	-										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高槻町7号線、北園町12号線、野見町1号線、紺屋町城北線	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	-										
	新たに追加した事業	基幹事業	高槻駅緑町線、野見八幡線、出丸野見線	高槻町7号線、北園町12号線、野見町1号線、紺屋町城北線			高槻町7号線、北園町12号線:地権者との協議難航のため 紺屋町城北線、野見町1号線:高槻城公園のメインルートに注力するため		道路の満足度の減少、通行者数の減少				
		提案事業	事後評価及び次期計画策定、立地適正化計画調査検討	高槻駅緑町線、野見八幡線、出丸野見線			基幹事業・関連事業へのアクセスルートである路線のバリアフリー化及び高質化を実現させるため		道路の満足度の増加、通行者数の増加				
交付期間の変更	当初	平成29年度～平成33年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-							
	変更	平成29年度～令和4年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	通行者数	人/日	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
				98,207	H28	102,557	R4		70,643	△	あり	新型コロナウイルス感染症拡大の影響、長期的に続く外出率の減少傾向などにより、平成28年に比べて本年の高槻駅周辺の人流は2割強減少している。加えて、調査実施日の天候(猛暑・雨天)の影響により人流の大幅な減少に大きく寄与したものと考えられる。また、駅前広場のバリアフリー化事業など一部は事業実施中であり、十分な整備効果が発現していないことから、目標値は達成出来なかったものと推測される。 一方で、関連事業である安満遺跡公園の整備やJR高槻駅及び阪急高槻市駅周辺の道路改良事業等の複数の事業が進捗したことから、駅から安満遺跡公園方面への通行量は増加傾向にあり、にぎわいある駅周辺の環境づくりに向けて、一定の整備効果が見られた。 人流減少の影響が今後1年以内に改善する見込みがないため、1年以内に達成する見込みは「なし」とした。	令和5年10月
指標2	保護者や子どもにとって良い環境が整い、住みやすいと思う割合	%	68.5	H28	75.6	R4		96.1	○	あり	基幹事業である高槻子ども未来館の整備に加え、関連事業である安満遺跡公園において、全天候型の子どもの遊び施設を配置するなど、子育て環境の向上に寄与する整備が完了したことから、目標値を達成することができたものと推測される。 子育て世帯が魅力を感じ、住みやすいと思うまちづくりに向けて、高い整備効果がみられた。	-	
										なし			

	指標3	道路の満足度	%	58.4	H28	60.5	R4		62.2	○	あり	● JR高槻駅北駅前広場バリアフリー化事業等が事業実施中であり、十分な整備効果が発現していないものの、整備完了により見込まれる「見込み値」の満足度では目標は達成することができた。事業が完了し、事業効果の発現を十分に確認することが可能であると推測される。また、若年の10代、子育て世代である30～50代の満足度は高く、誰もが安全・安心に移動できる快適な道路空間づくりに向けて、一定の整備効果が見られた。	令和5年10月
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指標			従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果 発現状況	●高槻を代表するイベント「高槻ジャズストリート」や「高槻バル」等の官民連携のイベントが定期的(コロナ禍は中止もあり)に開催され、都市再生整備計画による駅周辺のハード整備の推進と併せて相乗効果を発揮し、にぎわいの創出が図られている。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加 プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 都市再生整備計画事業の交付金を活用した魅力ある拠点づくりを進めることとあわせて、中心市街地の活性化に向けて、魅力ある店舗の創出や中心市街地での購買力の向上に繋がる取組を行うことで、高槻の玄関口にふさわしい駅周辺のにぎわいあるまちづくりを進めていく。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	高槻市子ども・子育て会議				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 本計画のエリアにおいては、高槻子ども未来館が開館するなど、子育て世代向けの機能が充実していく予定である。本会議で、子どもや子育て家庭を取り巻く現状やニーズにあわせた教育・保育の提供体制の確保について評価・提言等をいただくとともに、必要に応じて、都市再生整備計画に反映させることで、より子育てのしやすいまちづくりを目指す。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり 体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 都市再生整備計画事業の交付金を活用した魅力ある拠点づくりを進めることとあわせて、中心市街地の活性化に向けて、魅力ある店舗の創出や中心市街地での購買力の向上に繋がる取組を行うことで、高槻の玄関口にふさわしい駅周辺のにぎわいあるまちづくりを進めていく。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													
商業者、交通事業者、大学関係をはじめとする多様な関係者による 高槻市中心市街地活性化協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 都市再生整備計画事業の交付金を活用した魅力ある拠点づくりを進めることとあわせて、中心市街地の活性化に向けて、魅力ある店舗の創出や中心市街地での購買力の向上に繋がる取組を行うことで、高槻の玄関口にふさわしい駅周辺のにぎわいあるまちづくりを進めていく。					
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
市民や障がい当事者、商業団体をはじめとする多様な関係者による 高槻市バリアフリー基本構想継続協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● エリア内の回遊性を高め、にぎわいのある安全・安心・快適な道路空間づくりを実現するため、今後も継続して道路や建築物などのハード面のバリアフリー整備と併行し、心のバリアフリー醸成を高めるソフト事業に取り組む。					
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

## 様式2-2 地区の概要

高槻駅周辺地区(3期)(大阪府高槻市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
行ってみたい、住んでみたい、住みつけたい、中核都市拠点の創出		通行者数	単位: 人/日	98,207	H28	70,643
目標1 高槻の玄関口にふさわしいにぎわいある駅周辺環境づくり		保護者や子どもにとって良い環境が整い、住みやすいと思う割合	単位: %	68.5	H28	96.1
目標2 子育て世代が魅力を感じ、住みやすいと思う割合		道路の満足度	単位: %	58.4	H28	62.2
目標3 安全・安心・快適な道路空間づくり						



**まちの課題の変化**

- 高槻の玄関口にふさわしいにぎわいのある駅周辺の環境づくりに向け、阪急高槻市駅北駅前広場バリアフリー化、JR高槻駅北駅前広場バリアフリー化、高槻駅緑町線舗装高機能化や関連事業等によるにぎわいのある拠点形成が進められた。
- 子育てしやすい街づくりに向け、高槻子ども未来館の整備や関連事業等により、都市機能の充実と子どもや子育て世代も安心して生活できる空間形成が進められた。
- また、継続して取り組むべき課題として以下が挙げられる
  - 子どもから高齢者までの多世代が集まるにぎわい拠点の形成、市民の交流や活動を活性化させ、暮らしやすさをさらに高める拠点の整備
  - 一拠点間を快適に移動できるアクセス機能の強化による移動性向上と安全・安心・快適な道路空間づくりとして、回遊性の向上に資する移動環境の構築
  - さらに、社会潮流やまちの課題の変化として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴いゆとりある公共空間・オープンスペースの重要性が高まっていること、さらなる高齢化の進展に伴い安全で快適な歩行環境が高まっていることなどが挙げられる。また、安満遺跡公園、高槻子ども未来館の整備や市民会館の建替事業が進捗し、魅力的な都市施設が次々整備されたことから、施設整備と併せた駅周辺から各施設への安全・安心・快適な歩行者ネットワークを構築していくことが新たな課題としている。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- 3期計画において、一定整備が進んだが、今後も、多世代が集まるにぎわいと魅力ある街づくりを継続する。
- 高槻城公園へのアクセスルートの無電柱化・舗装高機能化を実施し、城下町再生を図る。
- JR高槻駅北側メイン通りの無電柱化・舗装高機能化を行い、拠点間を快適に移動できるアクセス機能の強化を行う。
- 持続可能なまちづくり体制の構築に向け、引き続き市民参加プロセスを継続しながら、より市民ニーズにあった都市拠点としての機能強化・集約化を図る。